

■南部信直 武將。戦国大名。近世への転換期に、中央の動きに的確に対応して難局を処理、のちの南部藩の基礎を築いた。

なんぶのぶなお

足利義輝將軍1546＝ 陸奥国岩手郡一方井で、南部氏23代安信の弟石川高信の庶長子に生まれる。母は一方井安直の娘。父高信は、はじめ糠部郡三戸の田子城にいて、糠部を姓としていた

ザビエル来日1549＝ 3歳：

南部家は、甲斐国南部庄の出身で、奥州平泉の藤原泰衡討伐に勲功を挙げ、源頼朝から糠部五郎(おそらく一戸から九戸のうちの五部)を与えられたという南部光行に始まる総本家(三戸南部家)に始まり、分派して吉野朝で活躍した南部師行に始まる八戸南部家は津軽の安東氏も追放するほどであったが、衰退しつつあって、津軽でも総本家が主力になっていたが、安東氏末裔の秋田氏との抗争などで不安定な状況にあった。一方井氏についても、吉野朝時代すでに一戸の豪族であった。

大陸邦民事件1555＝ 9歳：

・・・・・・ 1556＝10歳：この頃、母とともに、三戸の田子城に移って、田子九郎と称し、生来、病弱であったが、

この間、甲斐の武田晴信(信玄)とよしみを通じ、一字をもらって信直と称するようになり、

桶狭間の戦い1560＝14歳：

やがて、男子出生が見られない従兄の24代南部晴政の婿養子に迎えらる。養父晴政は領主として以前に、女性問題などでだらしなく、部下や豪族から反感・不信感を持たれるなか、

川中島の戦い終1564＝18歳：

將軍義輝自刃1565＝19歳：養父晴政の命で、安東氏末裔秋田近季の鎮定に従うが、・・・・・・ 1566＝20歳：秋田近季の鹿角郡侵入に、養父晴政が地域の諸士を味方に抱き込んで防戦に努めるも、

織田信長入京1568＝22歳：ついに攻め落とされて、鹿角郡を失い、三戸城が危機に陥ったことから、

京都宣教許可1569＝23歳：実父高信が九戸政実とともに、大挙して攻撃し、鹿角郡を復す。

石山合戦始り1570＝24歳：養父晴政の妾腹に男子晴継が誕生すると、嫌われるようになり、

比叡山焼討り1571＝25歳：実父高信が、斯波氏を攻めて志和郡見前城を占領するなど、長年、斯波氏との対立も続き、

三方原の戦い1572＝26歳：三戸城を攻撃してきた津軽杉生大蔵を、八戸政栄と実父高信が松前に敗走させるなど、

室町幕府滅亡1573＝27歳：

南部氏の領土拡大のほとんどに実績を示す実父高信が信頼されていることもあり、養父晴政は密かに信直の暗殺まで考えるも従う家臣はいなかったが、身の危険を感じるようになって、妻(晴政の長女)が病死すると、世継の座を晴継に譲って、田子城に引き籠もる。この相続をめぐる、実力者の実父高信と九戸政実との間に紛争が生じるなか、

安土城築城1576＝30歳：

晴継は夭折してしまい(疱瘡説から毒殺説まである)、快々として楽しまない養父晴政は岩手郡を攻略し、そこに接する斯波氏との緊張も高まって行くが、

安土教会許可1579＝33歳：

弟政信を津軽郡代として浪岡城におく。同時に、補佐として新たに大光寺光愛を置き、執事職は大浦為信・汗石正吉と合わせ三人となる。同時に、補佐として新たに大光寺光愛を置き、執事職は大浦為信・汗石正吉と合わせ三人となる。

本能寺の変1582＝36歳：

*嗣子を定めずに晴政が死去して、一族が分裂するなか、南部家臣北信愛(松斎)に、八戸政栄も賛成して、三戸城に迎えられ、襲封して26代南部信直となる。以後、領内統一すべく、諸族の反撥への対処に腐心、

豊臣秀吉関白1585＝39歳：

秀吉太政大臣1586＝40歳：

パレヅ追放令1587＝41歳：

刀狩海賊取締1588＝42歳：

・・・・・・ 1589＝43歳：

秀吉全国統一1590＝44歳：

*豊臣秀吉の密使田中清六が来訪すると、北信愛と協議の上、秀吉に款を通じることとし、秀吉が関東総無事令を発して私戦を禁じたことをチャンスに、斯波氏の内紛に乗じて領土を拡大、北信愛を派遣して、前田利家に鷹を贈り、誓紙を交換して、秀吉への幹旋を取り付け、斯波氏を討伐、弟の津軽郡代石川政信が死去し、津軽の大浦為信が秋田実季とともに、一族の九戸政実と通じて叛き、木村奎助を派遣して、秀吉から上洛のための路次の保障を受け、*激しく対立するなか、秀吉からの命に応じて小田原に参陣、参陣しなかった陸奥の武將討伐軍を起した秀吉に謁して、南部7郡の本領安堵の朱印状を得る。和碑一揆勢に攻められた鳥谷ヶ城の救援に成功するが、*公然と反乱を起した九戸政実の鎮圧に苦戦、自ら京に上って秀吉に状勢報告し、直ちに帰国。羽柴秀次を総大将とする大軍の投入を得て、九戸城を陥落させ、一党ごとく“なで切り”にした上、失った津軽の代地として和賀・稗貫・志和の3郡を与えられ、子の利直とともに京都に上り秀吉に謝し、九戸城を福岡城と改めて居城とする。浅野長政の勧めで、のちの南部藩の核になる不来方(盛岡)築城を計画、

土農工商公布1591＝45歳：

*公然と反乱を起した九戸政実の鎮圧に苦戦、自ら京に上って秀吉に状勢報告し、直ちに帰国。羽柴秀次を総大将とする大軍の投入を得て、九戸城を陥落させ、一党ごとく“なで切り”にした上、失った津軽の代地として和賀・稗貫・志和の3郡を与えられ、子の利直とともに京都に上り秀吉に謝し、九戸城を福岡城と改めて居城とする。浅野長政の勧めで、のちの南部藩の核になる不来方(盛岡)築城を計画、

文禄の役・・・・ 1592＝46歳：

方広寺大仏殿1593＝47歳：

関白秀次事件1595＝49歳：

秀吉の朝鮮派兵の命により、兵二千を率いて西上、肥前名護屋に出陣するも、渡海せずに帰福すると、長女の夫八戸直栄が病死、次女が秋田英季に縁付く。静養して力を蓄え、領内の諸城を破却し、

慶長の役・・・・ 1597＝51歳：

豊臣秀吉没1598＝52歳：

前田利家没1599＝53歳：

翌年にかけて在京して、盛岡城築城について、なんとか秀吉の諒解を得、築城の朱印状を得たらしく、*築城を開始した直後、病を得て福岡城で、没した。年内には、取り組んできた岩手郡検地も完了する。